

第2次嘉麻市保健計画の目標項目一覧

※H30取り組み：●は平成30年度に新規に取り組む事業 ○は平成29年度より継続して実施する事業

※目標値の斜め線は、アンケート調査による指標のため、新たにアンケートを取ることでしか評価できないため目標値を設定していません。

※取り組みが空白になっているところに関しては、アンケートや今回の計画策定に伴い見えてきた課題のため、来年度以降随時取り組み、目標値について検討を行っていきます。

目標指標	自治体での目標	国の現状	策定時(H29)	目標値			最終年度指標(H39)	※H30取組
				H30	H34	H39		
1. 健康寿命の延伸								
健康寿命の延伸 (日常生活に制限のない期間の平均の延伸)	65歳の健康寿命	男性 71.19年 女性 74.21年 (平成25年)	男性 81.59年 女性 85.22年 65歳の健康寿命 (平成28年)	/	/	/	上げる	以下の2～6の基本施策に取り組むことによって健康寿命の延伸を図る。
2. 主要な生活習慣病の早期発見、発症予防と重症化予防の推進								
(1)がんの早期発見、早期治療に努める								
75歳未満のがんの年齢調整死亡率の減少(人口10万対)	年齢調整死亡率 (人口10万対)	男性 99.0 女性 58.8 (平成27年)	男性 148.2 女性 63.9 (平成26年)	145.8 62.9	136.2 58.9	124.2 53.9	下げる	【目標値については「県の5年間で8%以上の減少」との整合性を図る】 ○がん検診の受診率向上により、早期発見に努めるとともに、予防対策として危険因子の普及啓発を実施。
がん検診の受診率の向上 (受診率算定：40歳～69歳 子宮頸がんのみ： 20歳～69歳) 精密受診率(40歳以上 子宮頸がんのみ 20歳以上) (対象者数は年度当初4月1日時点の人口を使用)	胃がん受診率	胃がん 6.3% (平成27年度)	胃がん 男性 4.9% 女性 6.1% 合計 5.5% (平成28年度)	合計 5.6%	合計 6.0%	合計 6.3%	合計 6.3%	【がん検診受診率の向上】 (普及啓発) ●織田美術館での乳がん検診啓発を実施。 ●県の「がん教育を通じた大切な人からのメッセージカードによるがん検診受診勧奨事業」に向けて教育委員会との連携・準備。 ●広報での子宮頸がん個別検診等の特集記事の掲載。 ●健康ポイント事業でのがん検診啓発活動の実施。 ○子宮頸がん・乳がん検診無料クーポン券の配布。 ○母子手帳交付時における子宮頸がん無料クーポン券の案内。 ○乳幼児健診における子宮頸がん検診の啓発。 ○乳がん啓発のピンクリボンツリー設置。 ○成人式会場での子宮頸がん検診啓発活動。 ○特定健診の受診勧奨にクーポン対象者には同時に受診勧奨を実施。 ○夜間等に電話での受診勧奨を実施。 ○検診申込時にシステムにて対象となる検診を確認し受診勧奨を実施。 ○圧着はがきでの未受診者勧奨を実施。(5大がん個別の受診勧奨・再勧奨) ○各医療機関や公共施設、スーパー等に嘉麻市総合がん検診日程掲載のポスターを掲示。 ○ケーブルテレビやホームページにて総合がん検診の周知。 ○乳がん自己触診啓発におけるお風呂ポスター配布 <体制整備> ●商工会健診における嘉麻赤十字病院との乳がん個別検診実施に向けての調整・準備。 ○乳がん日曜個別検診の実施。 ○若年健診・特定健診・協会けんぽ健診と同時実施。 ○日曜日の検診日を設定。 ○問診票の事前送付。 ○無料託児の設置。 <危険因子の対応> ○がん予防推進における肺年齢測定事業や減塩教室事業等の実施。
	要精密受診率	79.5% (平成26年度)	94.4% (平成27年度)	100%	100%	100%	100%	
	肺がん受診率	肺がん 11.2% (平成27年度)	肺がん 男性 6.4% 女性 8.4% 合計 7.4% (平成28年度)	合計 7.5%	合計 9.1%	合計 11.2%	合計 11.2%	
	要精密受診率	79.8% (平成26年度)	98.8% (平成27年度)	100%	100%	100%	100%	
	大腸がん受診率	大腸がん 13.8% (平成27年度)	大腸がん 男性 6.1% 女性 8.5% 合計 7.3% (平成28年度)	合計 7.4%	合計 10.2%	合計 13.8%	合計 13.8%	
	要精密受診率	66.9% (平成26年度)	92.9% (平成27年度)	100%	100%	100%	100%	
	子宮頸がん受診率	子宮頸がん 23.3% (平成27年度)	子宮頸がん 9.6% (平成28年度)	9.7%	15.7%	23.3%	23.3%	
	要精密受診率	72.4% (平成26年度)	81.8% (平成27年度)	100%	100%	100%	100%	
乳がん受診率	乳がん 20.0% (平成27年度)	乳がん 15.6% (平成28年度)	15.7%	17.7%	20.0%	20.0%		
要精密受診率	85.1% (平成26年度)	98.5% (平成27年度)	100%	100%	100%	100%		

目標指標	自治体での目標	国の現状	策定時(H29)	目標値			最終年度指標(H39)	※H30取組
				H30	H34	H39		
(2)循環器疾患を予防する								
脳血管疾患・虚血性心疾患の年齢調整死亡率の減少 (人口10万対)	脳血管疾患の年齢調整死亡率 (人口10万対)	脳血管疾患 国 29.4 県25.7 (平成27年)	35.7 (平成24年～平成26年の中間値)	← 県平均を目標に前年度より減少 →			減少	●市民の4割を占める協会けんぽ加入者も含め、健診の情報提供を積極的に実施。(がん検診申し込み、各種健康相談時に実施) ●協会けんぽと健診受診率の状況や健診体制の整備について情報共有できる場の検討。 ○特定健診等生活習慣病健診後の保健指導事業を継続。
	心疾患(高血圧性を除く)年齢調整死亡率 (人口10万対)	心疾患 国 49.8 県33.1 (平成27年)	33.7 (平成24年～平成26年の中間値)	← 県平均を目標に前年度より減少 →			減少	
循環器疾患 新規発症患者数 (国民健康保険被保険者千対)	循環器疾患 新規発症患者数(国民健康保険被保険者千対)	(県) 脳血管疾患 23.1 虚血性心疾患 19.4 (平成28年度)	脳血管疾患 27.0 虚血性心疾患 18.2 (平成28年度)	← 県平均を目標に前年度より減少 →			減少	○特定健診等生活習慣病健診後の保健指導事業を継続。
特定健診・特定保健指導の実施率	特定健康診査実施率	36.3% (平成27年度)	40.9% (平成28年度)	45.0%	55.0%	60.0%	増加 嘉麻市国民健康保険保健事業計画の目標値	●効果的な未受診者通知等について検討。 ●健康ポイント事業を健診受診動機にってもらうように市民に広く周知。○市民課と連携し、国保保健事業(未受診者対策事業、疾病管理台帳事業)の実施。 ○新人スタッフ研修会等を行い保健指導体制を維持整備。
	特定健診保健指導	25.1% (平成27年度)	73.0% (平成28年度)	60.0%	60.0%	60.0%	60%以上の維持	
メタボ該当者・メタボ予備群の割合	特定健診におけるメタボリックシンドロームの該当者及び予備群の割合	(県) メタボ該当者 男性 27.8% 女性 9.4% メタボ予備群 男性 18.0% 女性 6.3% (平成28年度)	メタボ該当者 男性 30.4% 女性 12.4% メタボ予備群 男性 17.8% 女性 8.2% (平成28年度)	メタボ該当者 男性 30.14% 女性 12.10% メタボ予備群 男性 17.8% 女性 8.01%	メタボ該当者 男性 29.10% 女性 10.90% メタボ予備群 男性 17.80% 女性 7.25%	メタボ該当者 男性 27.80% 女性 9.40% メタボ予備群 男性 17.80% 女性 6.30%	減少	●保健指導による改善例をスタッフで共有し、保健指導のスキルアップ。また、保健指導の標準化を目標にスタッフ学習会を継続。 ●市内運動施設における市民の利用促進を目的に関係者の連携の場の検討。 ●身体活動(運動)資料改善に向けた検討。 ●健康増進事業(稲築保健センター運動指導、健康度測定会、ステップ健康教室、健康プラス教室等)の継続。また、ステップ健康教室については、教室日以外で個別でステップ運動の指導とステップ台の貸し出しができるか検討。 ○特定健診等生活習慣病健診後の保健指導を継続
メタボ該当者・メタボ予備群の減少率	嘉麻市特定健康診査におけるメタボ該当者・メタボ予備群の減少率	(県) メタボ該当者 21.0% メタボ予備群 20.1% (平成28年度)	メタボ該当者 20.5% メタボ予備群 18.3% (平成28年度)	メタボ該当者 25.00% メタボ予備群 18.48%	メタボ該当者 25.00% メタボ予備群 19.20%	メタボ該当者 25.00% メタボ予備群 20.10%	増加	
高血圧の改善 (最高血圧の平均値の低下)	嘉麻市健診(特定、若年、生保等全て含んで)受診者の収縮期(最高)血圧の平均値	男性 134mmHg 女性 127mmHg (平成28年) 有病率 46.9%	男性 132mmHg 女性 129mmHg (平成28年度) 有病率 50.6%	男性 132mmHg 女性 129mmHg	男性 130mmHg 女性 127mmHg	男性 128mmHg 女性 125mmHg	減少	○減塩教室の継続実施。 ○減塩モニタの貸出。 ○家庭血圧測定の勧奨と貸出。 ○血圧手帳の配布。 ○血圧160/100以上の未治療者の受診勧奨。
	嘉麻市健診受診者(特定、若年、生保等全て含んで)有病率(服薬中+140/90以上の割合)	(内訳) 服薬中 27.9% 服薬なし I度高血圧(140/90)以上 19.0% (平成27年)	(内訳) 服薬中 34.3% 服薬なし I度高血圧(140/90)以上 16.3% (平成28年度)				減少	
脂質異常症の減少 (LDLコレステロール160mg/dl以上の割合)	嘉麻市健診(特定、若年、生保等全て含んで)受診者LDLコレステロール160mg/dl以上の割合	男性 7.9% 女性 10.8% (平成27年) 有病率 37.5%	男性 8.6% 女性 11.6% (平成28年度) 有病率 32.5%	男性 8.4% 女性 11.3%	男性 7.5% 女性 10.2%	男性 6.5% 女性 8.7%	減少	○LDL180以上の未治療者の受診勧奨及び保健指導
	特定健診における有病率(服薬中+LDL160以上の割合)	(内訳) 服薬中 26.4% 服薬なし 160mg/dl以上 11.1% (平成27年)	(内訳) 服薬中 23.2% 服薬なし 160mg/dl以上 9.3% (平成28年度)				減少	

目標指標	自治体での目標	国の現状	策定時(H29)	目標値			最終年度指標(H39)	※H30取組
				H30	H34	H39		
(3)糖尿病及び糖尿病合併症を予防する								
合併症(糖尿病性腎症による年間新規透析導入患者数)	国民健康保険・後期高齢者被保険者(65~74歳)の新規人工透析患者数(被保険者千対)	(県) 国保 0.4% 後期(65~74歳) 1.2% (平成28年度)	国保 0.5% 後期(65~74歳) 0.6% (平成28年度)	国保 0.4%	国保 0.4%	国保 0.4%	減少	<ul style="list-style-type: none"> ●市民課が主催する糖尿病重症化予防を考える会の症例検討会等研究会を通して医療との連携体制を構築。 ○A1c6.5%以上への受診勧奨と血糖コントロール不良者への保健指導の継続。 ○医療機関連携による保健指導の継続。 ○優腎会(慢性腎臓病予防教室)の継続 ○市民課と連携し、国保保健事業(糖尿病性腎症重症化予防事業)の実施。
糖尿病治療継続者の割合	国保特定健診におけるHbA1c(NGSP)6.5%以上のうち、服薬をしている者の割合	53.1% (平成28年度)	58.1% (平成28年度)				増加	
血糖コントロール指標におけるコントロール不良者の割合	国保特定健診におけるHbA1c8.0%以上の者の割合	1.4% (平成28年度)	1.7% (平成28年度)	1.67%	1.55%	1.40%	現状維持	
糖尿病患者数の伸びの抑制	国保(40~74歳)疾患別患者数(被保険者千対)	(県) 138.7 (平成28年度)	157.2 (平成28年度)	/	/	/	伸び率が県平均を下回る	
3. ライフステージに応じた健康づくりの推進								
(1)こころの健康の維持・増進を図る								
自殺者数(人口10万対)	自殺死亡率(人口10万対)	男性 24.21 女性 10.33 全体 17.01 (平成28年)	男性 53.13 女性 13.80 全体 32.06 (平成28年)	全体 26.85	全体 23.77	全体 20.42	減少	<ul style="list-style-type: none"> ●全庁的に情報を共有し、第1次嘉麻市自殺対策計画の策定。 ●9月の自殺予防週間の際に広報で、主な電話相談の周知を図る。 ○嘉麻市こころの電話相談の継続。 ○広報やポストカードにより嘉麻市こころの電話相談の周知を図る。 ○3月の強化月間に人材養成の講演会を開催。 ○出前講座でうつ予防のテーマで講演の実施。
自分を大切に思える児童・生徒の割合の増加		—	小学5年生 62.4% 中学2年生 58.4% (平成29年度)	/	/	/	増加	
悩みを話せる人がいない児童・生徒の割合		—	小学5年生 9.3% 中学2年生 9.4% (平成29年度)	/	/	/	減少	
ストレスを感じている者の割合		47.7% (平成28年)	65.9% (平成29年度)	/	/	/	減少	
(2)子どもの健やかな生活習慣を形成する								
妊娠中の喫煙率		3.4% (平成27年度)	11.4% (平成28年度)	9.0%	6.0%	0.0%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 【妊娠中の喫煙率・飲酒率】 ○母子健康手帳交付時、マタニティ教室時に妊娠中の喫煙・飲酒の弊害の周知・啓発。 【低出生体重児の割合】 ●母子健康手帳交付時に栄養士による個に応じた栄養指導の実施。
妊娠中の飲酒率		1.6% (平成27年度)	1.3% (平成28年度)	1.0%	0.5%	0.0%	0%	
全出生数中の低出生体重児の割合		(県) 9.9% (平成27年)	7.9% (平成27年)	7.0%	6.0%	5.0%	減少	
朝食欠食率(児童生徒)	「ほとんど食べていない」の回答者	小学5年生 9.5% 中学2年生 13.4% (平成22年度)	小学1年生 9.3% 小学5年生 12.3% 中学2年生 15.0% (平成29年度)	/	/	/	減少	<ul style="list-style-type: none"> ●教育現場での取り組みについて把握し、今後の取り組みについて検討。
ジュース類を毎日飲む児童生徒の割合		—	小学1年生 29.5% 小学5年生 28.3% 中学2年生 25.1% (平成29年度)	/	/	/	減少	
22時以降に就寝する幼児・児童生徒の割合		小学5年生 41.1% 中学2年生 86.6% (平成22年度)	3歳 41.4% 小学1年生 6.7% 小学5年生 73.9% 中学2年生 94.0% (平成29年度)	3歳 40.0%	3歳 35.0%	3歳 30.0%	減少	(3歳) ●乳幼児健診時に生活リズムとこどもの発達についてのチラシ配布し啓発。
ふだんテレビやゲーム、スマホなど1日に見る時間が3時間以上の児童生徒の割合		—	小学5年生 28.8% 中学2年生 38.6% (平成29年度)	/	/	/	減少	●教育現場での取り組みについて把握し、今後の取り組みについて検討。

目標指標	自治体での目標	国の現状	策定時(H29)	目標値			最終年度指標(H39)	※H30取組
				H30	H34	H39		
20～30歳代の女性の低体重(やせ)の者の割合	BMI18.5未満の割合	20歳代 国 22.3% 県 23.5% 30歳代 国 15.5% 県 14.3% (国:平成27年) (県:平成28年)	20歳代 23.3% 30歳代 20.0% (平成29年度)	/	/	/	減少	
(3)元気な高齢者を増やす								
ロコモティブシンドローム(運動器症候群)を認知している者の割合		46.8% (平成26年)	14.9% (平成29年度)	/	/	/	増加	
低栄養傾向の高齢者の割合(低栄養傾向(BMI 20以下))		男性 12.8% 女性 22.0% (平成28年)	60歳以上 男性 15.0% 女性 19.4% (平成29年度)	/	/	/	減少	
地域活動に参加していない高齢者の割合		男性 37.6% 女性 45.0% (平成28年)	60歳以上 60.7% (平成29年度)	/	/	/	減少	
出前講座の参加者数		—	114回 延べ参加者数 2,285人 (平成29年度見込)	2,300人	2,300人	2,300人	2,346人	●薬剤師等の講話を追加するなどメニューの内容を充実。
オレンジサロン実施箇所数		—	11カ所 (平成29年度)	12カ所	12カ所	12カ所	12カ所	○オレンジサロン補助金制度導入。
認知症サポーター数		—	2,106人 (平成29年度見込)	2,200人	2,400人	2,590人	2,590人	○認知症キャラバンメイトや認知症地域支援推進員を中心に地域などでサポーター養成講座実施
4. 個人の健康づくりを支えるための環境づくりの推進								
(1)地域とのつながりを強化する								
健康づくりを推進するための学習会や自主グループに参加している者の割合		—	3.3% (平成29年度)	/	/	/	増加	
5. 生活習慣の改善								
(1)栄養・食生活に関する健康的な習慣を身につける								
メタボ該当者・メタボ予備群の割合(再掲)	特定健診におけるメタボリックシンドロームの該当者及び予備群の割合	(県) メタボ該当者 男性 27.8% 女性 9.4% メタボ予備群 男性 18.0% 女性 6.3% (平成28年度)	メタボ該当者 男性 30.4% 女性 12.4% メタボ予備群 男性 17.8% 女性 8.2% (平成28年度)	メタボ該当者 男性 30.14% 女性 12.10% メタボ予備群 男性 17.8% 女性 8.01%	メタボ該当者 男性 29.10% 女性 10.90% メタボ予備群 男性 17.80% 女性 7.25%	メタボ該当者 男性 27.80% 女性 9.40% メタボ予備群 男性 17.80% 女性 6.30%	減少	(2)循環器疾患を予防する同様
メタボ該当者・メタボ予備群の減少率(再掲)	嘉麻市特定健康診査におけるメタボ該当者・メタボ予備群の減少率	(県) メタボ該当者 21.0% メタボ予備群 20.1% (平成28年度)	メタボ該当者 20.5% メタボ予備群 18.3% (平成28年度)	メタボ該当者 20.95% メタボ予備群 18.48%	メタボ該当者 20.75% メタボ予備群 19.20%	メタボ該当者 20.50% メタボ予備群 20.10%	増加	
1日に2回以上、主食・主菜・副菜をそろえて食べている者の割合		50.3% (平成27年)	60.0% (平成29年度)	/	/	/	増加	
1日に取りたい野菜摂取量を知っている者の割合		—	31.5% (平成29年度)	/	/	/	増加	○健康プラス教室継続。 ○申告会場でのフードモデル展示。
1日の塩分量として望ましい摂取量を知っている者の割合		—	43.4% (平成29年度)	/	/	/	増加	●申告会場健康相談での食進会による減塩みそ汁普及に関して協議。 ○減塩教室継続・減塩モニター利用促進。
夕食後に間食を週に3回とる者の割合	特定健診質問票	11.8% (平成28年度)	13.8% (平成28年度)	/	/	/	減少	※H30～問診内容変更のため現状把握し取り組みを検討する

目標指標	自治体での目標	国の現状	策定時(H29)	目標値			最終年度指標(H39)	※H30取組
				H30	H34	H39		
就寝前2時間以内の夕食が週3回以上ある者の割合	特定健診質問票	16.2% (平成28年度)	24.5% (平成28年度)				減少	●保健指導のための効果的な資料の作成。 ○問診票で確認してから保健指導実施。
朝食欠食率(一般市民)	特定健診質問票	8.7% (平成28年度)	11.4% (平成28年度)				減少	●保健指導のための効果的な資料の作成。 ○問診票で確認してから保健指導実施する
(2)身体活動・運動に関する健康的な習慣を身につける								
運動習慣者の割合	1日に30分以上の運動を、週2回以上行っている者の割合	男性 35.1% 女性 27.4% (平成28年)	20～59歳 25.8% 60～79歳 38.6% (平成29年度)				増加	●利用促進。 ●稲築保健センター増進室普及ポスター掲示・チラシ配布。 ○問診票で確認してから保健指導実施。
歩行と同等の身体活動量が1日1時間以上ない者の割合	特定健診質問票	国 47.0% 県 50.3% (平成28年度)	54.2% (平成28年度)				50.3%	●保健指導時に活用する身体活動(運動)資料改善
(3)休養に関する健康的な習慣を身につける								
睡眠による休養が十分に取れていない者の割合		19.7% (平成28年)	25.0% (平成29年度)				20.0%	
睡眠時間6時間未満の児童生徒の割合		—	小学5年生 6.2% 中学2年生 12.3% (平成29年度)				減少	●教育現場での取り組みについて把握し、今後の取り組みについて検討。
ふだんテレビやゲーム、スマホなど1日に見る時間が3時間以上の児童生徒の割合(再掲)		—	小学5年生 28.8% 中学2年生 38.6% (平成29年度)				減少	
(4)適切な飲酒習慣を心がける								
1日の飲酒量の適量を知っている者の割合		—	32.7% (平成29年度)				増加	●飲酒関連の教育媒体を保健センターに設置 ●申告会場における健康相談で教育媒体の展示 ○保健指導時に適量以上の飲酒している者には、適切な情報提供を行う。
適量以上の飲酒をしている者の割合(純アルコール量:男性40g以上、女性20g以上)		男性 14.6% 女性 9.1% (平成28年)	男性 18.8% 女性 32.1% (平成29年度)				減少	
未成年の飲酒の害について「たくさんの害がある」と答えた児童生徒の割合		—	小学5年生 48.2% 中学2年生 51.3% (平成29年度)				増加	●教育現場での取り組みについて把握し、今後の取り組みについて検討。
未成年の飲酒の割合		中学生 17.1% 高校生 30.5% (平成25年度)	小学5年生 20.8% 中学2年生 19.1% (平成29年度)				0%	
妊娠中の飲酒率(再掲)		1.6% (平成27年度)	1.3% (平成28年度)	1.0%	0.5%	0.0%	0%	(2)子どもの健やかな生活習慣を形成するを参照
(5)喫煙習慣を改善する								
たばこを吸っている者の割合		18.3% (平成28年)	19.9% (平成29年度)				減少	●受動喫煙も含め喫煙と健康について、広報で情報提供について検討する ○がん検診会場等で肺年齢測定事業を継続し、喫煙者には保健指導を行う。
家族の前でたばこを吸っている者の割合		—	(喫煙者) 38.2% (家族) 一般市民 52.1% 小学5年生 30.3% 中学2年生 44.4% (平成29年度)				減少	
COPDの認知度の向上	COPDの認知度	30.1% (平成26年)	19.3% (平成29年度)				25%	○肺年齢測定事業の継続・周知

目標指標	自治体での目標	国の現状	策定時(H29)	目標値			最終年度指標(H39)	※H30取組
				H30	H34	H39		
妊娠中の喫煙率(再掲)		3.4% (平成27年度)	11.4% (平成28年度)	9.0%	6.0%	0.0%	0%	(2)子どもの健やかな生活習慣を形成するを参照
育児期間中の親の喫煙率		母親 7.3% 父親 40.6% (平成27年度)	母親 21.2% 父親 56.1% (平成28年度)	母親20.0% 父親55.0%	母親15.0% 父親50.0%	母親10.0% 父親45.0%	減少	○乳幼児健診時、児へのたばこの影響、受動喫煙についての情報提供 ○乳幼児健診会場に受動喫煙啓発ポスターの掲示
たばこを吸ったことがある児童生徒の割合		中学生 男子 6.6% 女子3.8% 高校生 男子 11.9% 女子5.8% (平成26年度)	小学5年生 3.1% 中学2年生 4.5% (平成29年度)	/	/	/	0%	●教育現場での取り組みについて把握し、今後の取り組みについて検討。
(6)歯・口腔に関する健康的な習慣を身につける								
幼児歯科健診う歯有病率		1歳6ヶ月児健診 国 1.80% 県 3.04% 3歳児 国 17.69% 県 17.99% (平成26年度)	1歳6ヶ月児 1.78% 3歳児 22.46% (平成28年度)	1歳6か月児 1.6% 3歳児 21.0%	1歳6か月児 1.3% 3歳児 19.0%	1歳6か月児 1.0% 3歳児 17.0%	減少	●乳児健診において歯についてのチラシ配布と説明実施 ○1歳6か月児、3歳児健診において受診者全員へ歯科指導実施 ○2歳児フッ素塗布の実施 ○間食やジュースなど甘い物と虫歯の関係を歯科指導に合わせて栄養士が実施。
1日の歯磨き回数が0～1回の幼児・児童生徒の割合		—	1歳6ヶ月児 53.7% 3歳児 38.2% 小学1年生 33.1% 小学5年生 18.6% 中学2年生 16.5% (平成29年度)	1歳6か月児 53.0% 3歳児 37.0%	1歳6か月児 50.0% 3歳児 35.0%	1歳6か月児 45.0% 3歳児 32.0%	減少	
児童の保護者による仕上げ磨きの割合		—	小学1年生 34.4% (平成29年度)	/	/	/	増加	●教育現場での取り組みについて把握し、今後の取り組みについて検討。
児童生徒1人平均虫歯経験歯数	DMFT	(県) 小学5年生 0.68本 中学2年生 1.37本 (平成28年度)	小学5年生 0.94本 中学2年生 1.44本 (平成28年度)	/	/	/	減少	
60歳代で24本以上の歯を有する者の割合		50.0% (平成27年)	39.4% (平成29年度)	/	/	/	増加	●歯科健診の対象年齢拡大 ●個別歯科健診体制の検討 ●市民の口腔意識を高めるため、広報での情報提供について検討 ○歯科健診の継続
60歳代で咀嚼機能良好者の割合	何でもよくかんで食べることのできる者の割合	72.6% (平成27年)	62.5% (平成29年度)	/	/	/	増加	
歯科健診(20～39歳)で進行した歯周病を有する者の割合	歯肉炎、歯周病により要精密となった者の割合	—	16.7% (平成28年度)	/	/	/	減少	
過去1年間に歯科医院を受診した者の割合		52.9% (平成28年)	一般市民 59.2% (平成29年度)	/	/	/	増加	
6. すべての子どもが健やかに育つための支援								
(1)育てにくさを感じる親に寄り添う支援を充実する								
育てにくさを感じる親の割合		4ヶ月児 14.3% 1歳6ヶ月児 25.5% 3歳児 35.8% (平成27年度)	4ヶ月児 16.4% 1歳6ヶ月児 22.6% 3歳児 36.9% (平成28年度)	4か月 16.0% 1歳6ヵ月 22.0% 3歳 36.0%	4か月15.0% 1歳6ヵ月 21.0% 3歳 35.0%	4か月14.0% 1歳6ヵ月 20.0% 3歳 34.0%	減少	●乳幼児健診で、児の発達段階を説明、それに応じた適切な生活習慣の啓発。 ○赤ちゃん訪問時、エジンバラ産後うつ病質問票(EPDS)アンケート実施。 ○療育事業の実施 ○児の発達に応じた支援を保育所(園)・幼稚園と情報共有し連携を図る。
育てにくさを感じた時に対処できる親の割合		4ヶ月児 81.3% 1歳6ヶ月児 78.9% 3歳児 79.2% (平成27年度)	4ヶ月児 84.2% 1歳6ヶ月児 70.8% 3歳児 86.5% (平成28年度)	4か月 85.0% 1歳6ヵ月 72.0% 3歳 87.0%	4か月86.0% 1歳6ヵ月 75.0% 3歳 88.0%	4か月87.0% 1歳6ヵ月 78.0% 3歳 89.0%	増加	○育児に不安を抱える母親の心理相談の実施

目標指標	自治体での目標	国の現状	策定時(H29)	目標値			最終年度指標(H39)	※H30取組
				H30	H34	H39		
(2) 妊娠期からの児童虐待防止対策を強化する								
虐待していると思われる親の割合		4ヶ月児 9.7% 1歳6ヶ月児 21.4% 3歳児 39.9% (平成27年度)	4ヶ月児 8.5% 1歳6ヶ月児 25.4% 3歳児 39.9% (平成28年度)	4か月 8.0% 1歳6か月 24.0% 3歳 35.0%	4か月 6.0% 1歳6か月 20.0% 3歳 30.0%	4か月 4.0% 1歳6か月 15.0% 3歳 25.0%	減少	●乳幼児健診で、健やか親子アンケートを利用した育児相談の実施 ○児の状況把握のため健診未受診者へ家庭訪問や園訪問を実施 ○家庭児童相談員や児童相談所などの連携、情報共有
乳幼児健診未受診率		4ヶ月児 4.6% 1歳6ヶ月児 5.6% 3歳児 8.1% (平成27年度)	4ヶ月児 7.3% 1歳6ヶ月児 8.9% 3歳児 11.5% (平成28年度)	4か月 7.0% 1歳6か月 8.0% 3歳 10.0%	4か月 6.0% 1歳6か月 7.0% 3歳 9.0%	4か月 5.0% 1歳6か月 6.0% 3歳 8.0%	減少	【乳幼児健診未受診率】 ●保育所(園)・幼稚園へ乳幼児健診の日程ポスター掲示) ●未々受診者への再案内ハガキ通知(1歳半・3歳) ○未受診者への再案内通知○未々受診者への受診勧奨の電話(4ヶ月・7ヶ月) ○未受診者への再案内通知○未々受診者への受診勧奨の電話(4ヶ月・7ヶ月)
乳幼児家庭全戸訪問事業実施率		—	98.7% (平成28年度)	99.0%	99.0%	99.0%	現状維持	